


令和4年度かわまち勉強会実施状況

<第15回かわまち勉強会 北上川グループ>

1. 開催概要

項目	内容
開催日時	令和4年12月6日(火) 10:00~12:00
開催場所	国土交通省 岩手河川国道事務所 2階 大会議室
参加人数	15名(対面参加者7名、WEB参加者8名)
参加者名 (敬称略)	対面:海野、大坪、軍司、下向、安原 / 【行政】木村、齊藤 WEB:阿部、猪原、内田、小山、菊池、金野、服部 / 【行政】杉田
次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. あいさつ 3. 前回(第14回)の振り返り 4. コアメンバー会議からの報告 5. 各団体からの活動状況等発表 6. 自由意見交換 7. 事務局からの情報提供 8. その他 9. 閉会
勉強会の様子	 

2. 各団体の今年度の活動状況等

団体名	活動状況（・）および今後の予定（◎）
北上川に舟っこを運航する盛岡の会	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は10回ほどの運航を計画し、雨のために実際は8回程度実施。 ・今年度は新山河岸の下船後の町家との連携に重点を置いて行った。 ・運航に人員をさくために、鉾屋町ガイドまで人員確保が難しかった。 ・舟運とまちづくりということで、他団体の協力も得てボンネットバスの運行を計2回行った。 ・バス運行は北上川フェスティバルとバスセンターのオープンの2回で200人以上、町家に300人以上と来客があったが、舟運については10人×5回程度/1日が限界で、雨天ではできない。 <p>◎来年度は予算の関係も含めて舟運に重きをおいて行きたい。</p>
ゼロイチキュー合同会社	<ul style="list-style-type: none"> ・木伏緑地はコロナの影響もあって、予約があってもキャンセルが繰り返されている。 ・今年度は初めてサウナを行った。実施は大変だが、お客様には好評だった。草刈りの問題が大変で、今年度は自分たちで刈った。 <p>◎来年はコロナの様子を見ながらイベントも増やしていきたい。</p> <p>◎来年もサウナを実施する予定。</p>
いわて流域ネットワークワーキング	<ul style="list-style-type: none"> ・2年程来ていなかった修学旅行が復活して、木伏周辺を活用して案内を行った。 ・今年度はボート下り大会も復活し、レスキューを行った。 ・リバーSUPの活動を広めていて、ダム湖など止水域でおこなっているが、慣れてくると流れがあるところでもやりたい方が増えている。 ・川の活用や体験型活動の問題は安全であり、リバーレスキューの育成など人材を育成が必要であるが、助成を行ってもらわないと広まらない部分も大きくある。 <p>◎かわのある町盛岡を広めていきたい。</p>
盛岡まち並み塾	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響でR3～4年はほとんど活動できていない。 ・舟運と連携して鉾屋町近辺にお客さんを案内したが、高齢化と人員不足で十分にはできていない。 <p>◎旧暦のひなまつりが好評なので、R5年はこれに代わる新しい形式を検討する予定。</p> <p>◎歳時記もできるところから復活を検討していきたい。</p>

<p>神子田町内会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 神子田の朝市の時間と舟運の時間があっていない。 ・ 以前の会議では新山河岸の船着き場からバス停にリンクという話や修学旅行とのタイアップという話もあったが、整備された施設を活用した企画を見たことがない。
<p>いわて景観まちづくりセンター</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県域での活動が多いが、R3~4年についてはコロナの影響で盛岡市に関する企画を行っていない。 ・ 今年度は、北上市の展勝地へ誘導するサインの検討を行っている。これには北上川のサイン検討も含まれる。 ・ 古民家保存なども行っている。
<p>北上川流域連携交流会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交流会として何か積極的に動いているということはなく、各会員が活動している。 ・ 交流会として積極的に行っているのは一関市のアイポートでの案内などを行っているが、コロナの関係で動きがとれていない。 ・ 花巻市では活発に活動している。 ・ 個人的には開運橋周辺の花壇づくりを保育園と連携して行っている。

3. 自由意見交換等での主な意見

意見項目	主な意見	事務局（行政）からの回答・対応方針
1. 自由意見交換		
<p>1-1. 勉強会としての 情報発信</p>	<ul style="list-style-type: none"> このかわまち勉強会が一団としてやれる事のひとつとして、ペーパーでも何でも良いので、情報が広がるような仕組みが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 岩手河川国道事務所でも Twitter 発信を行っている。 ミズベリングのチャンネルもあるが、あちこちにサイトがあると大変なので、盛岡市でSNSの共通アカウントを作って投稿できるようにしたほうが良いのではないかと。 →市としては独自アカウントの創設は難しいと思われます。(市) ミズベリング盛岡のロゴマークなども作ってあるので、共通のものを各団体で使ってもらうことで一体感をもった広報にもつながる。
<p>1-2. 河川敷の草刈</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本当に利用するには草刈は月1回ではなくて、週に1回は行わないといけないが、費用や労力がかかってしまう。 木伏のイベントでは、盛岡市にもご協力をいただきながら有志で行った。 イベントに参加したサウナの業者からは草刈しても草の状態は良くないと言われた。 これまでは国の年2回の草刈りの付近を狙ってイベントを行っていたが、コロナが収束に向かうにつれイベントの回数が増えるので、今の頻度では厳しいだろうと考えている。 利用促進を進める割には草刈りなどが行われず利用しづらい現実にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用時に利用形態に応じた草刈をするしかないと考えている。 宮城県石巻市では草刈り機を貸し出している事例もある（燃料別途）。使う方に日当程度の報酬も出す方法もある。 公共の場を市民が主体となって維持管理するために市で草刈機を準備して貸し出す動きも「緑の基本計画」のアクションプランの中であるが予算がつくかはわからない。 すぐには厳しいだろうが、除雪機の貸し出しと同じように、冬は除雪機、夏は草刈機のようにできるとよい。 →R5年度当初予算で、機器貸し出しの予算は付きませんでした。R6以降も予算確保に向け取り組んでいきます。(市)

意見項目	主な意見	事務局（行政）からの回答・対応方針
1-3. 河川空間のオープン化	<ul style="list-style-type: none"> 旭橋～開運橋間は「都市・地域再生等利用区域」の指定を取得したいと考えていて、市にも打診している。 	<ul style="list-style-type: none"> 市としては、オープン化の可能性について検討し始めた段階である。今後、河川空間活用方法や維持管理の体制など、市だけでは進めることはできないので、市民のオープン化の同意を得るには勉強会参加のみなさんの協力が必要になる。
	<ul style="list-style-type: none"> オープン化とパーク PFI は近いものと思っている。 課題となるのが、市民へ情報公開していくプロセスだと思う。河川周辺の市民と緊密に議論し、意見交換しあうことが重要で、そこを疎かにすると問題となってしまうケースが過去にも多々あるので、十分に気を付けてほしい。 まずやるのは大事だが、今日のメンバーが参加することが必要で、各団体から市民にしっかり発信し、知らなかったということにはいけないので、この機会に各団体の発信力を付けたほうがいい。 	<ul style="list-style-type: none"> 勉強会や学識者の中でオープン化について認識してもらうことが大事と思っている。 皆様の合意がなければ地域指定ということもないと思う。・今後、河川のオープン化の認知を広めつつ、市民の方々も取り入れられていければいい。
	<ul style="list-style-type: none"> 「かわづくり」も含めたオープン化も検討して欲しい。安全に川で遊ぶことができる空間づくりをしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの団体がいて、活動が多岐にわたっており、川遊びの意見から高水敷の活用の意見まであらゆる意見がある中で、今の形があるものと思っている。今後は今あるものをどのように活用していくかが重要と考える。

意見項目	主な意見	事務局（行政）からの回答・対応方針
1-4. 勉強会への新たな団体の参加	<ul style="list-style-type: none"> ・かわまち勉強会の各団体にも若者はなかなか来ないから、この勉強会に（直接）若者を取り入れて、やってもらったほうが良いかもしれない。 ・まち並み塾の「若ものプロジェクト」の場合は街並みをどうこうしたいというよりも、本来の目的とは異なり、地域の人々との交流を求めて来ているように見える。 ・楽しいことをやっているという発信があれば若者も寄ってくると思う。 ・楽しい、楽しいと言っておくことが大事だと思う。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・盛岡には4つも大学（岩手大学、岩手県立大学、盛岡大学、岩手医科大学）があるが、学生は川で活動していない。 ・彼らは「おもしろそう」「自分ではできなかったけど参加すればできる」という理由で参加してくれていた。 ・今はコロナで出来ていないが、楽しくないと参加してくれない。 ・楽しい講習会など継続できるものがあるといい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・皆さんの賛同を確認したので、今後は新たな団体へ参加を呼びかけて進めていきます。
2. その他		
2-1. 開催日程について	<ul style="list-style-type: none"> ・日程は決め打ちのほうが良い。年度初めのほうが情報共有できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次回から予定スケジュールを設定、都合が悪い場合は変更していく方向で検討したい。

<第16回かわまち勉強会 中津川グループ>

1. 開催概要

項目	内容
開催日時	令和4年12月6日(火) 13:30~15:30
開催場所	国土交通省 岩手河川国道事務所 2階 大会議室
参加人数	10名(対面参加者6名、WEB参加者4名)
参加者名 (敬称略)	対面：海野、軍司、越戸、柴田／【行政】和川、平良 WEB：寺井、松本(静毅)、松本(範雄)／【行政】杉田
次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. あいさつ 3. 前回(第13回)の振り返り 4. コアメンバー会議からの報告 5. 各団体からの活動状況等発表 6. 自由意見交換 7. 事務局からの情報提供 8. その他 9. 閉会
勉強会の様子	 

2. 各団体の今年度の活動状況等

団体名	活動状況（・）および今後の予定（◎）
盛岡まち並み塾	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナの影響でR3～4年はほとんど活動できていない。 ・ 舟運と連携して鉾屋町近辺にお客さんを案内したが、高齢化と人員不足で十分にはできていない。 ◎旧暦のひなまつりが好評なので、R5年はこれに代わる新しい形式を検討する予定。 ◎歳時記もできるところから復活を検討していきたい。
北上川流域連携交流会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交流会として何か積極的に動いているということはなく、各会員が活動している。 ・ 交流会として積極的に行っているのは一関市のアイポートでの案内などを行っているが、コロナの関係で動きがとれていない。 ・ 花巻市では活発に活動している。 ・ 個人的には開運橋周辺の花壇づくりを保育園と連携して行っている。 ・ 今は流域で活動支援をしているが、北上川での活動はネットに上げたりしている。 ・ いろいろ情報を集めているが、この情報を上げてくれという要望は、そんなに多くはない。
中津川勿忘草を育てる会	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナで活動ができていない。 ・ 何名かに声をかけて集まる人たちで活動している。それで十分と思っている。 ・ そこに小学校や中学校、高校が入ってきている。 ・ 石垣清掃を岩手女子高の理事長に依頼して、その高校生に協力してもらっている。 ・ 中津川の石垣が崩れそうな個所がある。以前、木が生えていたところでそういう個所ができたので、何とかしてもらえればと思っている。
もりおか中津川の会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大きな活動はできていない。 ・ 小規模ながら取り組んでいるものとしては、ふかくさ前の草刈りを4回程行った。 ・ 草を刈って、イスとテーブルを置いて、市民の方に自由に使ってもらっている。 ・ お弁当を食べる方やのんびりする方、ふかくさの飲み物を嗜む方もいた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・映画の上映会も開催した。
下米内町会	<ul style="list-style-type: none"> ・今年からは綱取ダムの所長や市の消防対策室の職員を招いて勉強会を行った。 ・「佐々木館（ささきだて）」という戦国時代前の遺跡を有志によって整備した。空堀などが残っていて、中津川と米内川を見下ろせて憩いの場になる。この場所は市民の皆さんの憩いの場にもってこいである。
本町振興会	<ul style="list-style-type: none"> ・本町振興会は28回にわたって鮭の赤ちゃん放流会を開催している。 ・コロナ禍でも去年に続いて今年も3月第2土曜日に放流会を実施した。 ・かつては約18,000匹の稚魚を放流していたが、秋の遡上が激減している。 ・東日本大震災でも松尾鉦山の問題でも鮭は戻ってきたが、温暖化という地球規模の問題があり、事態は深刻である。 ◎来年3月の放流事業ができないかもしれないと言われていたが、梁川河川漁業協同組合の組合長に問い合わせを行い、多方面に働きかけたところ、北海道産の卵を提供してもらえることとなり、来春も継続して放流会を行える見込みである。 ◎鮭がなくなったら何があるのか、中津川のキャッチフレーズも含めて市民全体で考える必要があるのではないか。

3. 自由意見交換等での主な意見

意見項目	主な意見	事務局（行政）からの回答等
1. 自由意見交換		
1-1. 市への事務局移行時期	<ul style="list-style-type: none"> 市への事務局移行について、なぜ3年もかかるのか。予算等の課題もあるだろうがもう少し早くできないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 事務局はかわまちづくりの申請者である盛岡市に移行することになるが、盛岡市としても急に引き継ぐのは大変だということで、モニタリングの5年という期間を使って徐々に移行していく流れとした。（R8年から完全移行の予定）
1-2. 河川の定期的な巡視	<ul style="list-style-type: none"> 役所はどこが不便で危険かわかっていない。下ノ橋周辺は深くて、水の量が多いから手が付けられない。また、下ノ橋周辺を整備しないと鮭が遡上してこない。月に1回でも良いから市役所が定期的に見回りしてくれれば良いなど思っている。 以前の勉強会でも中洲の安全性についての議論があった。人命にも関わるから一度クリアしておく必要もあるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 環境整備事業は国交省でやるが、日常的な管理は自治体をお願いすることになる。この点は今盛岡市と調整中である。 基本的に河川管理は国交省が行うので、河川巡視しながら危険なところは注視していくということになるが、中津川以外にも管理しているので全体を見ながら管理していくということになる。
1-3. 次世代へのバトン	<p>【若い人達とのつながり】</p> <ul style="list-style-type: none"> 町内会で草刈りを年に3～4回ほど行っているが、参加者が70代を超え80代になってきており、彼らがいなくなった時にはどのようにしていくのか。あと何年かできなくなる。今後をどう考えていけばよいか、次の世代が育っているのか、町内会で続けられるのか。 町内会の若い人が育たない問題と共通していると思う。次のバトンを取るひとがいるのか。（参加メンバーからの回答として） 	—

意見項目	主な意見	事務局（行政）からの回答等
	<ul style="list-style-type: none"> ・次の世代も育っている。附属幼稚園など川遊びをしたいからとやってくれている。 ・20年以上前に四高のハンドボール部を連れてきたのが始まり。それからずっと続いている。指導者の人が代々やっていけばできると思う。 	
	<p>【学校での教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史から学んだ方がいい。上の橋のことや擬宝珠のことなど、歴史的なことを学校で子どもたちに教えればもっと身近になるのではないか。 ・上の橋は殿様しか渡れなかったことを祖父から聞いた。これを子供に教えていきたい。 ・盛岡は京都にも劣らないと思う。そういうことを役所でパンフレットにして配布すれば、観光客にもいいかなと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光のコンテンツではあるし、歴史の情報を収集して観光に生かすのは市の仕事かなと思うが、どのように活用していくのが、市と市民でマッチングできていないのではないのかとも思う。
1-4. 活性化の方法（河川空間のオープン化）	<p>【市民が楽しめる事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光も大事だがまずは市民が楽しめることを考えたほうが良い。 ・松江市などは橋を売りにしている。お堀を巡回している。盛岡市と違ってかなり予算を使っている。橋を下から見ても美しく見せている。 ・川といえばみんな散歩やランニングなどをする。何もなくてもできる。遊歩道をきれいに整備したほ 	<ul style="list-style-type: none"> ・水道橋や落合橋周辺に遊歩道ができないのは私有地のため整備ができなかったもの、国ではかわまちづくりの施設整備が完了していることから、今後整備するのであれば盛岡市が実施することになる、盛岡市の事情もあるので、今後の勉強会で議論していくことになる。

意見項目	主な意見	事務局（行政）からの回答等
	<p>うがいい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中津川橋までは遊歩道があるが、水道橋や落合橋まで整備されて周回できる遊歩道があるとかかなりの市民が利用するはず。利用されるようになれば自ずときれいになっていくだろう。 ・観光よりも地元の盛岡市民に親しまれることが大事だという考えに共感する。 ・ハード整備は市長選挙や市議会選挙などで政治的に努力するしかない、かわまちづくり勉強会のレベルを超えている。 	
	<p>【新しいアイデアや集客施設整備が必要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今の若い世代では、中津川で遊んだことのない親もいる。 ・市民の川へのアプローチの仕方が変わっているので、PFI 事業のように具体的に川に慣れ親しんでもらうようなアイデアが必要で、それを実現していくことで、整備の必要性を皆が感じてくるのではないか。 ・中津川に訪れる若い人たちが増える作戦を考える必要がある。 ・北上川では舟運をやっている。木伏では PFI 事業もやっている。 ・中津川も自然発生的にではなく、北上川のようになにかしらの施設がないと活性化しないのではないか。 ・以前、クラフト展を城跡公園で開 	—

意見項目	主な意見	事務局（行政）からの回答等
	<p>催されていたが、残念なのは河川敷で何も行われていなかった。公園やバスセンターなどは人がいたが河川敷には居なかったが、河川敷を上手く利用すれば、もっと人が来てもらえるようになると思う。</p>	
	<p>【飲食提供などの展開】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河川敷の草刈りをして、イス・テーブルを置いているが、これを広めていきたい。規模としても、商売としても広げていきたい。飲食提供などをしてお客さんがくるようになれば、商売をする人が自発的にやってくれるのではないか。 ・コロナがおさまって、お客さんが楽しめるようになってきたら進めたい。 	—
<p>1-5. 河川景観の保全</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・盛岡の名所にもなっているござくの裏堀の柳が、大きく育ち過ぎていて、堀の倒壊の危険性があるが、今のままだと切り落とすしかないが、景観がかなり変化してしまい風情がなくなる。 ・盛岡の景観を維持していく上で、これから本格的に議論しないと将来的な懸念になってきている。 ・菊の司が中津川から引っ越して、蔵が今後どうなるか未定となっている。あの蔵がなくなると景観として変化が生じてしまうのではないかと地元の商店街としては懸念している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係者と調整しながら対応について検討していきたい。

意見項目	主な意見	事務局（行政）からの回答等
	<ul style="list-style-type: none"> ・柳は成長が早いので今のうちに処理したほうが良い。また、ただ切るだけでなく、挿し木で残す方法もある。 ・河川敷の木を伐採するには許可が必要なのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・私有地か官地かの問題になる。洪水の問題がある官地は切っている。私有地は手が出せない。私有地は、残したい人と、伐採してほしい人とがいる。
2. その他		
2-1. 次回勉強会の開催について		<ul style="list-style-type: none"> ・次回は討議テーマを絞った上で開催の案内を出したい。 ・各団体の連携も考えると、4月の早い段階で開催すべきかと思う。
2-2. 河川内の樹木伐採について		<ul style="list-style-type: none"> ・樹木伐採を下流から順次やっているということで、今は下ノ橋周辺の中州を伐採中で、野鳥の会との調整で残す樹木も決まっている。7年前にも樹木伐採した。
2-3. 中津川の観光資源について		<ul style="list-style-type: none"> ・市としても、中津川を観光資源としてどう使っていけばいいのか、考えていきたい。ハード・ソフトの担当課と連携していきたい。